

佳作

雄大な景色

福井県 鯖江市中央中学校一年 山本 雄大

景色。それは、人が心打たれる素晴らしい映像。ぼくは、小さい頃から趣味で父と山登りをしている。山登りをしていると必ず景色と出会う。どの景色も様々で個性的だ。ぼくは、その様々な景色にあこがれて山登りをしていると言っても過言ではない。

ぼくは、山の上の広々とした景色が好きだ。もちろん好きな景色は人それぞれだ。それに、いつも山は、同じ景色を見せてくれない。ぼくは初めて登ったその時の山の景色は覚えていないけれど、何回もその山を登っていくうちに、見ている景色が鮮明に感じるようになった。

ぼくは小学一年生の時、初めてアルプス級の白山に登った。とてもつまらなかった思い出がある。しかし、その時に見た景色は、今でも記憶に残っている。ちょうど紅葉の時期だっただろうか、景色は赤と黄色

で覆われていて、自分が今違う国にいるのかと思うくらい、美しかった。自然というのは、果てしない美しさがあるということ、その時知った。

また小学三年生の時、立山連峰に登った。ぼくは、この山は登る山ではなく、のんびりと美しい山なみを眺め楽しむ山だと思った。それほど広大で美しい景色だった。特に地形がおもしろくて、温泉が出ている所もあった。このような景色を見せてくれる地球の歴史の重みに、心打たれた。

そして小学六年生の時、槍ヶ岳に登った。標高三千メートルを超える有名な山だ。最初は緑があったけれど、どんどんと高度が上がっていくうちに植生が変わっていくのも、とても面白い景色だと思った。他にも山の連なりや、雲海なども素晴らしいと感じた。しかし、槍ヶ岳の頂きの景色の素晴らしさは格別だった。空は青く透き通り、あと少しで空に手が届きそうな感覚になった。ぼくは、山の頂きに着いた達成感と、素晴らしい景色を見ているうれしさで、言葉が出なかった。山登りというのは、苦しみを乗り越えた者だけが味わえる楽しみだと実感したのだった。

最後に「雄大」という言葉について話したいと思

う。意味は、景色などの規模が大きく、堂々として
いる様子。「雄大な景色」などと使う時もある。「雄
大な景色」というのは、ぼくが思い描く景色そのも
のだ。ぼくは「雄大」という名前をつけてもらい、
とても親近感がわく。これからも、色々な山が持つ、
感動的且つ、雄大な景色を楽しみながら、自分も
「雄大」が似合う人間になっていきたいと思う。